

「フラテ」原稿

2012年

今年度は、認知行動学分野より神経生理学分野と改名し、また、居室の大幅な配置替えをし、教室HP (<http://niseiri.med.hokudai.ac.jp>) もリニューアルするなど、田中教授新体制となったことをあらゆる面から実感（体感？）する年となりました。居室全体を一つの中廊下で貫く設計で、形の上だけではない「風通しのよい」教室になると良いなあ、と思います。

メンバーとしましては、森智子（実験補助員）が加わり、昨年博士課程を卒業した國松淳が助教となり、6年生の植松明子と松山圭がMD/PhDコースの1年目となりました。また、旅立ったメンバーとしましては、ポスドクで3年間本研究室にいた大前彰吾が、ペンシルバニア大に留学しました。2年前からエリトリアから留学しているアフォナ・ハブテマリウム（修士課程）は、2年間半の成果をまとめ、3月に修士課程を卒業する予定です。

日々の活動としましては、教室で行われているセミナーには連携研究センターの平田先生や、精神科の豊巻先生などが参加して下さっています。また、4年生の新田君がGazzanigaのCognitive Neuroscienceの輪読会を立ち上げ、2年生から4年生の医学生10名程が火曜日の朝に集まり、認知神経科学の魅力に取り憑かれて（？）います。だんだん人数もコンスタントに集まるようになり、輪読会専用のMLに約15名が登録しています。また、4年生の鈴木君、加藤君が研究に興味を持ってきて、しばしば自主的に教室を訪れるようになっていきます。このように、教室外の方、若い人たちが教室に出入りすることで、教室全体が新しい風・若いエネルギーで再充填され、研究に向かう熱意も一層高まってくることでしょう！

ここからは、それぞれの教室員からのコメントをご紹介します。

田中 真樹 教授

早いもので、これを書いている平成24年11月で教授に就任してから丸2年が経ちました。まだまだ忙しさに翻弄されている気がしますが、それでも少しずつ前進していることが感じられるようになってきました。今年はいくつか大きな変化がありました。①分野名を変更しました。以前から考えていた通り、専門分野の「神経生理学」をそのまま分野名にしま

したが、すでにある神経生物学分野と神経薬理学分野の中間のような名称のため、当初は郵便物の誤配送など、関係する皆様にご迷惑をおかけしました。②今春大学院を修了した國松先生が助教になりました。これからは教員として、自分の研究を進めるだけでなく、後輩の指導や全体的な管理にもあたっていただきます。③ポスドクの大前先生が、9月からペンシルバニア大に留学しました。北大での3年あまりの研究成果ももう少しで世に出るはずですが、米国でもぜひ頑張っていたきたいと思います。あちらでも引き続き小脳機能の解明に挑戦しています。④今春から、新たに技術補助員として森さんに来ていただくことになりました。某先生と同期の北大農学部卒です。これまで当教室に欠けていた片付け上手の貴重な人材で、大変助かっています。⑤学部6年生の植松さん、松山くんが正式にMD/PhDコースに進学しました。2月までは国試対策が最優先ですが、来春からの活躍に大いに期待しています。その他にも、大学院生の松嶋さんが國松助教、吉田院生に続いて今年度から学振特別研究員となり、また、昨年から教室に出入りしている教育学院の竹谷くんも来年度から採用されることになりました。学部生も少しずつ研究室に出入りするようになってきており、若い力と新しい発想で教室をますます盛り上げてくれることを願っています。私生活では、とくに変化もなく、たまに息子たちと釣りに行くのが楽しみです。

山野辺 貴信 助教

フラテの原稿を催促される季節になりました。最近論文の執筆、それに必要な計算に追いまくられる毎日です。そのため、あまり休んでいないのですが、気分転換に近くの山とか丘に登って汗を流すようにしています。汗を流したら、また仕事といった生活です。これが結構いい気分転換になっています。

Sergey Kurkin 助教

Originally I am from Rostov-on-Don, Russia. I got my PhD in biophysics in 1983. Since 1995 I joined the Laboratory of Sensorimotor and Cognitive Research at Hokkaido University Medical School. I am working on development of computer-based system to study the neural mechanisms controlling eye movements. This system comprises

3D virtual targets presentation, data acquisition, data analysis and computer modeling.

國松 淳 助教

はやいもので札幌にきて7年目、今年からは助教という立場になり、新しいスタートとなりました。お気楽だった自分から卒業しなければと思い、日々奮闘しております。特に最近では、研究室に出入りする学生さんたちと話しているうちに初心に戻れることが多く、とてもよい刺激をもらっています。私生活では、最近官舎に引っ越しました。北大の敷地内で、札幌駅徒歩5分という好立地ですが、なんと築45年です。はじめの頃はここに住めるのか！？という不安もありましたが、慣れてしまえばなんのその。すきま風とも友達です。

吉田 篤司 大学院生（博士3年, 学振 DC1）

行動課題中の慢性動物を用いて神経活動記録や薬理学的局所不活化を行い、大脳基底核の機序の解明を行なっています。他には、放射線照射装置を用いた疾患モデル動物の開発、および脳構造画像を用いた小脳機能の解明をテーマに研究しています。

松嶋 藻乃 大学院生（博士3年, 学振DC2, MD/Phdコース）

学部2年生の冬頃からこの研究室にお世話になり、はや7年を過ぎようとしています。自分より若い子たちが来てくれるようになり、ティーンエイジャーだった頃はいつのことやら最近めっきりおばさんになった気分です。学部生の頃から携わってきた仕事がやっと論文として掲載され、紆余曲折があった分だけ、すごく勉強になって良かったなあ、と思います。私生活としては、初めての一人暮らしを始め、文字通り“研究一色”の雑音のない生活を送れて、これから先振り返ってみても、人生で一番幸せな時期にいる気がします。

竹谷 隆司 大学院生（博士1年, 学振 DC2）

私たちがどのように視覚情報を知覚しているか、どのように情報の選択を行っているかについ

て、教育学院で研究しています。脳波を処理することで得られる事象関連電位という生理指標を用いています。より詳細なメカニズムに迫る神経生理学に興味があり、また大学では経営学を学んでいたため、神経経済学と呼ばれる研究領域も面白そうだなと思っています。研究の他に、漫画、ゲーム、テレビ、食べ物の話が大好きです。

Afona Chernet 大学院生（修士1年）

I am Mr. Afona Chernet Habtemariam from Eritrea. Currently I am in my second year Master course study program at the graduate school of Medicine. I joined the Systems Neuroscience Laboratory in the Department of Physiology in October 2010 as a research student and admitted as a regular student in April 2011. Since then I have been involved in the research project of behavioral experiments using non-human primate subjects, monkeys. So far I had a chance to present our findings at the annual conference of the physiological society of Hokkaido on September 1st, 2012 held at the Graduate School of Medicine. I am expecting to complete my studies by the end of this year and graduate on March 25th, 2013.

植松 明子（医学部6年, MD/Phdコース）

春から本格的に大学院に進学することとなりました。もっと研究する力をつけるために学び、考えていきたいと思っています。おもしろいなあと考えることがいっぱいあって嬉しいです。よろしく願いいたします。

松山 圭（医学部6年, MD/Phdコース）

今年の4月からは、MD-PhDコースの学生として、研究を本格的に行うことができ、研究の面白さ、奥深さを感じました。6月のモーターコントロール研究会、9月の生理学会地方会では、発表の機会を頂き、緊張しましたがとても良い経験でした。今年の後半からは医師国家試験の勉強が忙しく、研究の時間がなかなか持てませんでしたが、来年からはまたどんどん研究を進めていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

新田 統昭（医学部4年）

編入から早2年、冬がちょっと楽しみになってきました。今年は5月に神経生理学の英語教科書の輪読会が始まりましたが、1年生も含む学部生の皆さんのやる気、院生や田中先生のサポートのおかげでいつも盛り上がっています。興味のある方はぜひご参加下さい。私個人に関しては、サルのお世話のお手伝いをする事になりました。また、研究室に出入りし始めた4年生たちの熱意を見て、老け込むのは早いと気を取り直しています。

鈴木 智貴（医学部4年）

教室のみなさんにすごくお世話になっています、ありがとうございます。そしてすごく迷惑をかけています。好きな恩田陸の小説は1番が『六番目の小夜子』、2番が『三月は深き紅の淵を』です！イカ釣り（エギング）の秘伝のテクニックを知っている方は内緒にするので僕に連絡ください！

加藤 伸平（医学部4年）

夏休みの間はロイヤルホストに通っていたのですが、ずっと読書をしていたら闇に取り込まれそうになったのでこちらの研究室に通わせて頂く事にしました。まだ通いはじめで右も左も分からず何も役に立てていないですが、新しい事ばかりで楽しいです。やりたい事が多くて焦りばかり先行しますが、とりあえず色々首を突っ込んでいきたいなと思います。学科の勉強も置いていかれない程度に頑張ります。

森 智子（技術補助員）

2012年4月からこちらで働かせていただいています。主な仕事はサルのお世話です。人の顔と名前を覚えるのも苦手なのに、サルの名前と顔がなかなか一致せずに一苦労しています。

鈴木 真理 技術補助員

4月に神経生理学分野と改名されて、すっかり新分野名にも馴染んできました。研究室には、興味を持った学生さんがよく訪れるのでみなさん勉強熱心だなと嬉しく思っています。これからも、気軽に寄れる明るい教室であるように、微力ながらお役に立てるよう頑張ります。

以上、新しいメンバーも、ずっといるメンバーも、次に羽ばたこうとしているメンバーも、みなそれぞれに目標を持って、充実した日々を過ごしております。日々是精進！

(文責：松嶋)